

令和4年度 国立中央青少年交流の家 教育事業  
大学生のためのボランティア活動推進事業（ボランティア自主企画事業）

## 親子ほかほかデイキャンプ

令和5年1月14日（土）・1月15日（日）日帰り2日間



### ○目的

#### □自主企画事業のねらい

全体統括、マネジメント担当、プログラム担当の役割を持ち、ボランティア自身が企画立案から運営までを経験することで、指導者としての資質向上を図る。

#### □企画ボランティアが企画した事業のねらい

親子での体験活動を通して、身体を動かすことや一緒に遊ぶことの楽しさを知り、意欲的・積極的に活動に取り組むことでメディアから離れて家族で過ごす時間を増やす契機とする。

### ○参加者

#### □法人ボランティア

企画・運営 : 3名(男性2名 女性1名 内訳:大学3年生2名 大学2年生1名)

当日サポート: 7名(男性1名 女性6名 内訳:大学4年生4名 大学2年生2名 高校3年生1名)

#### □参加者

1月14日（土）3家族9名（幼児：4名 保護者：5名）

1月15日（日）3家族10名（幼児：5名 保護者：5名）

### ○本事業の仕組み

当施設で活動している法人ボランティア3名が企画ボランティアとなり、事業のねらいを設定し、そのねらいを達成するためのプログラム、2日間の事業の流れを話し合い決定した。

### ○当日までの流れ

- 7月下旬 企画ボランティア決定
- 8月上旬 企画ボランティアと担当職員の顔合わせ（オンラインミーティング）
- 8月下旬 機構本部、自主企画事業支援プロジェクトへ申請・採択
- 10月下旬 企画ボランティアと担当職員の進捗状況確認（オンラインミーティング）
- 11月中旬 事業企画書作成及び開催要項・チラシを作成
- 12月上旬 企画ボランティアによる次長へのレクチャー（オンライン）・チラシ発注・広報開始
- 12月中旬 事前準備
- 12月下旬 参加者決定
- 1月上旬 二次案内送付
- 事業前日 集合・最終準備

※上記以外にも企画メンバー3名で打ち合わせを行いながら準備を進めた。

### ○事業当日の運営

企画ボランティアの他に、参加者のサポート役として当日参加のボランティアを募集した。予定よりも多くの応募があったため2日間に分かれて事業運営に携わった。サポート役のボランティアや参加者は両日で異なったが、1日目の様子を踏まえて2日目の運営につなげることができた。

## ○準備～当日の様子



段ボールキャタピラ



魚釣りゲーム



カートンドック作り



創作活動



事業前日の最終確認

## ○事業を終えて

### 《企画ボランティアの感想》

- 時間をかけて考えたキャンプに参加者が来てくれてとても嬉しかったです！今回の経験を今後の活動にも活かしていきます！
- 自分たちが主体となって企画するのは初めてでしたが、企画の面でも物品の管理の面でも今までのキャンプとは違う視点から見るができるようになったのではないかと思います。
- 幼児と関わる経験が少なかったため、幼児をイメージしながらプログラムを企画することが最も難しかったです。対象者理解の大切さを感じました。

### 《成果と課題》

#### ○成果

- ・企画ボランティアを3名に絞ったことで、役割分担を明確にし、準備を進めることができた。
- ・同じ内容のプログラムで2日間実施したことにより、運営面において、初日の手ごたえや課題を2日目に活かすことができ、ボランティアの自信と経験につながった。

#### ○課題

- ・年間計画で事業日を設定していたが、冬期は実施できる活動が制限される上、書類の提出期限の都合上、企画の立ち上げから開催までの期間が長く、モチベーションの維持が難しかった。前年度踏襲でない日程で調整したり、ボランティアが日程を選択したりするなど事業の開催時期を検討する必要がある。
- ・ボランティアと職員のやりとりは、主にメールであったが、提出書類や企画内容等についての指導においてはかなりの時間を要することとなった。日中、ボランティアは学業があるため、オンラインミーティングや対面での指導の機会を確保することが困難だった。より円滑な指導方法を模索していきたい。